

我々は古田が佐トが悪いから、ただ単
にそれだけで闘うのではない。我々の闘い
の真の根源は「自由」「正義」「人間解放
」「真の人間性」等を勝ち取るためのス
トームであり、闘いである。そして現実に自
前に立ちふさがる敵として古田が佐
トがいるにすぎない。自己解放の内面的
闘いと同時に外的にもストームを起して
闘うのである。

我々はただ単位に止まらず、少しタイ
ム的に行き自己解放をせよ、然り化、マ
イホム主義的なもの、生活全般、一切
排除されるなどない。

我々は数年後には日本も三民主義に入
るべくである。今日の社会は、これは、
巨大組織あるいは階級組織等が生ずる人
間疎外という肉體があり、それに加えて形
だけの民主主義、腐敗した上部組織等であ
る。我々が今日求めたいものは、この社
会に新金のいかにあるか（資本主義）
である。しかし、それだけではなら
ない。

我々は今日も社会を豊かにする闘いの
真し、考えなければならぬ。その方法
として先に卒直な意見を述べ、おかし
いならわらわらわらに卒直な意見を
出し、今人の二だかり三本は活発な討論を
しよう。まず言いたい。

① 勇気をもって卒直な意見を述べよ。

個別と普遍の我が学園斗争

山内和夫

我が日大斗争もすでに一年半の歴史を経
過せんとしている。殊外それ搾取され
た10万日大生は闘う中で自己を奮起し、新
たな闘いに立ちこけた。

我々は次の果を認識できるであろう。つま
りすでに多くの学友からも指摘されて来た
が、個別学園と全人民的政治斗争の相関に
ついては日大斗争の闘いの過程を分析す
れば明白であろう。我々は時としてジグザ
グ的な過程を通ったが、でもそれは次の斗争
を闘う為にも歴史的には不可避であった。
それは我々の事物認識の過程でもあった。

若干考えて見ると、個別学園斗争を止揚
し闘いを責任を持って領導してのみ、我々
学生戦線の仕事とは、各戦線での人民の口
シタリアートと連帯するタンホ条件が整う
のではないだろうか。帝四主義秩序の上部
構造に位置する学生戦線の闘いは現代的に
自己の立場を明確に認識するならば、その
自己の立場を根本的に解体する方向の闘い
を通じてのみ（帝四主義の構造の一端を粉
砕するといふ意味において）三里塚農民と
連帯をせよと思う。個別学園斗争を放棄し
て「安保粉砕、日帝打倒の塔」と化せず
ついに進軍も出来ないという現状に対し
その下降的断絶の現状を無視しての街頭斗
争なら無意味であろう。我々は次の事をも
確認しなければならぬ。つまり労働運動
の場合にもその賃金斗争の至者斗争を単純
に至者主義者的歪曲の現状をどの称に持っ
ていくかという労働者階級の闘いを見るに
我々側の問題としても個別学園改良斗争を
どのような方向にもって行くかの課題とし
てある。（その地平は自らが政治性を認
識した地平であり、その地平より個別を注
目する）。学園の地域的、特殊の矛盾をど
のように運動過程で、横のつながりをもつ
矛盾を普遍化していくかである。このよう